

高齢化を迎えた長大橋梁テーマに

都市環境などをテーマに、する研究」プロジェクトチーム、産・学・官が技術の融合・創造を目指して研究を進める「新都市社会技術融合創造研究会」(委員長＝大西有三、西大学特任教授・京都大学名誉教授)のプロジェクトの一つである「高齢化を迎えた長大橋梁の診断と長寿命化に関する研究」プロジェクトチーム、産・学・官の垣根を取り払い、技術の融合・創造を図ること

を目的に設立した。学術教授)は20日、大阪市中京区の大阪合同庁舎第1号館で研究成果報告会を開いた。地方整備局道路部などが参画し、「都市の再生」「道路構

健全性の評価・診断を実施。予防保全も含めた最適な補修・補強対策を提案し、その効果を検証した上で今後の長寿命化を目指した維持管理方針を策定することを目的としている。具体的には、国道2号淀川大橋を対象に、各部材の健全性を診断し、解析や実験により、

新都市社会技術融合創造研 坂野関西大教授らが報告

新都市社会技術融合創造研究会は、構造物のライフサイクル全体を見据えた新しい創生が不可欠との考えに基づ

造物の保全」を大きなテーマに、プロジェクトごとにチームを設置して調査・研究を進めている。

りそれらの劣化挙動を推定し、橋梁全体の劣化シナリオを作成。その劣化シナリオに対して、解析や実験により、

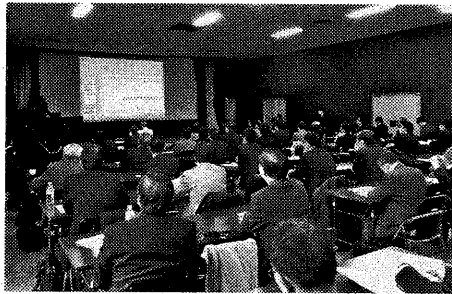
長寿命化を図るための予防保全を含めた最適な補修・補強対策を検討した。

成果を報告する坂野教授



坂野教授のプロジェクトは、80年以上供用され続けて高齢化を迎えた橋梁のうち、特に重要な路線に架設され、また周辺の土地利用状況などから架け替えが困難な長大橋梁を対象に、現状を把握し、

報告会には約150人が参加。冒頭、瀬本浩史近畿整備局大阪国道事務所長が「淀川大橋は58年から直轄管理とな



ことが大切だ」と話した。